

学んで行動する 議会へ

市政調査会

〔調査日〕

令和元年7月22日

〔参加議員〕

16名

◆大野平・石羽根キャトルセンターの状況を調査

キャトルセンターの指定管理者は、遠野市畜産振興公社である。大野平キャトルセンターは、畜産農家から哺育預託、育成預託、繁殖預託を受けている。石羽根キャトルセンターは、繁殖預託のみ。どちらのセンターも規模には余裕があり、まだまだ預託が可能である。昔から遠野地方で行



われてきた夏山冬里方式は、牧野利用期間が限られていることから、季節的な負担軽減にとどまり、省力化・コスト低減に十分対応できず、規模拡大の効果には限界があった。キャトルセンターを活用することで、増頭意欲のある農家が施設整備を行わなくても、規模拡大と増収を図ることが出来る。キャトルセンター運営については、今後の改善と安定経営を望むものである。

教育民生常任委員会

遠野ケアイノベーション会議とワールド・カフェ「高齢化問題について」

開催日 令和元年7月31日

ワールド・カフェは、カフェでくつろいでいるような雰囲気で行われる、新しい「話し合いの手法」です。さまざまな気づきや自由な発想、アイデアを生み出すことができます。

高齢者福祉や介護に従事している15名の思いを聞かせていただきました。現場の声を施策に反映できるように、これからも各種団体との懇談会を企画してまいります。



福祉教育の充実を。

希望をもって働きたい。

高齢化 ≠ ネガティブワード

介護を特別視しない。

福祉の仕事の楽しさを発信する。

息抜きも大事。

小友町外山地区メガソーラー開発に起因する土砂の流出について

市長…まずは事業者が地域住民と向き合っていたらきたい

問……………

市が管理する外山川へ大量の土砂が流出し、下流まで汚濁が広がり生態系や自然環境の破壊が進んでいる。市はどのような許可を与えているのか。

答(市長)……………

道路占用、準用河川占用等を許可している。

問……………

外山川は、遠野市が管理責任者であり、準用河川占用許可はどのような基準により許可されたのか。

答(市長)……………

制度に基づいて許可をした。

問……………

泥の流出阻止対策と

問……………

泥の流出が止まるのか。何う。

答(市長)……………

泥の流出は止まらないのではないかと考えている。様々な対策を進めるよう強く指導をしている。

問……………

泥が止まらないのはこれまでの指導が十分であったのではないか。

答(市長)……………

現行制度に不備がある中で、この問題に真剣に立ち向かっている。市長として市民の先頭に立っているという自覚と責任をもって

問……………

河川が汚濁している問題は、私は河川法で対応できると考えている。問題を収束するための今後の遠野市の対応は。

答(市長)……………

現行制度の中でどのように業者と向き合う手があるのか、今後の見通しを見極めながら対応していく。

問……………

市長は今回の開発に対して反対の姿勢を示していないようだが、反対しないのはなぜか理由があるのか。

答(市長)……………

開発に反対する姿勢については変わらな。遠野の自然を守りたいと考えているが、市町村としては現行制

問……………

度の中では矛盾と限界を感じている。河川管理責任者としての市長の責任は大きい。市長はこの現実に対して市民の盾になって戦ってくれないか。

答(市長)……………

第一義的には事業者が地域住民としっかり向きあってもらい、補償や対策について誠意をもって示すのが大事。河川管理者が遠野市だから責任があると議論されたら大変だ。事業者に強く指導をしていく。



小松 正真 議員

一問一答方式

外山川の汚濁は止まるのか 市長…事業者に対し強く指導していく



本年4月の様子 中央奥から外山川、左から小友川